

「〇〇の神」は意外なリーダーシップ発揮法

1. 座右の銘

右掲は、藤井3冠が扇子に揮毫を書いて披露している写真です。扇子には「雲外蒼天」と書いてあり、「雲の外には、青空が広がっている」という意味から転じて「困難を努力して乗り越えた先には、明るい未来がある」という事だそうです。座右の銘として掲げる方が多いそうです。「雲」の向こうが見えないが必ず青空があると信じて努力を惜しまない事が大切だという事になります。

他にも「運根鈍」というものもあります。意味は「成功するには、幸運と根気と、鈍いくらいの粘り強さの三つが必要」という事です。「運鈍根」とも言います。個人的には「運鈍根」の方が現実的だと思います。「努力」が大切なのは普遍的な課題ですが、その上に「運」が必要であり、「運」を逃がさない努力と根気が必要という意味です。何事にも「時の運」があり「時流」という大きなパワーがあります。

右下は岸田首相が所信演説の写真ですが、その括りに「早く行きたければ一人で進め。遠くまで行きたければ、みんなで進め。」というアフリカの格言と言われる言葉で締めくくった。「皆で進む」ためには「時の運」に乗っている必要があります。やはり、「寄らば大樹の陰」のように勝ち馬に乗りたいたのが一般的な心理です。総論ばかりで具体性のない演説なので批判されていますが、それこそ藤井3冠にあやかって先ずご自身が「雲外蒼天」の勢いを示す必要があります。その為には、迫る総選挙で大勝利ですが、危うい状況です。今の政治は、大勢よって党となっているが個々の違いがあって党内から批判者が出るほどの混迷した状況です。まずは、この混迷した状況を突き抜けて自民党内で一体化して「決められる政治」に戻り、革新で進化する社会を築いて頂きたいと願うばかりです。



2. 「時の運」

現在は、コロナ禍で経済的には厳しい状況の企業が多いのが現実です。その上、人口が減少するので「引き潮」という時流が続いています。このような時には、ハンダのように熱が冷めて不純物が浮かんで来るように財務内容の悪化している企業が表面化するのです。資金繰りという課題に突き当たって、経営者の気力が問われています。先行を懸念して「廃業」を選ぶ方もいらっしゃるでしょう、政府がコロナ融資を制度化しているので劣後ローンを受けて当面を凌いでいる企業や「事業再構築の補助金」を申請して新しい事業に着手する企業と様々です。

右掲は恵比寿様のイラストですが、現在は「情報の時代」で様々な情報が飛び込んで来ます。中には怪しい情報が含まれていますが、目の前に「福の神様」が現れた時に対応できず通り過ぎてしまい、「福の神様には後ろ髪がない」と言われており引き戻す事ができない事が多々あります。事業においては「商品」が「福」を呼ぶのですが、なかなか幸運をもたらす商品に巡り合えないのです。このような状況を打破するのに「雲外蒼天」の格言のように、諦めずに必ず売れるという信念でマーケティングを根気よく続ける必要があるのです。そうすると創発進化が始まってドンドン良い運気を呼ぶように変化して行くのです。



「時の運」と言いますが、大きな流れに乗る事が重要です。しかし、現実的には身近な商品を通じて諦めずに努力を続ける事が大切です。マーケティングにもR&D期や導入期という手応えが余りない時期があって、この段階が長引くと耐えられなくなって諦める方が多いのです。これでは「慌て者の失敗」という結果に終わってしまうのです。

3. 「向日性の原則」

運という点では「向日(こうじつ)性の原則」があります。意味は「植物の茎や葉などが日光の刺激を受けて、そちらの方へむく性質。また、比喩的に人などの、明るい方へ伸びていく性質をいう。」です。確かに、陰気な雰囲気では他人は寄って来ないのです。リーダーの資質に雑談力が問われます。他人を巻き込む能力と言いますが明るい話題を提供できる能力、笑わせるジョーク力が人を引き付ける要素の一つなのです。

藤井3冠が「雲外蒼天」と言い、岸田首相が「早く行きたければ一人で進め。遠くまで行きたければ、みんなで進め。」というアフリカの格言を引用していますが、一人で頑張ってもキャパシティの限界があり、多人数でチームになって行う方が大きな成果に繋がり易いのです。この他人数を一丸にまとめるには「向日性」が必須になります。換言すると「雲外蒼天」を胸に自分でコツコツと追究する物を持ち、その実現の為に「向日性」で他人を巻き込む事になります。つまり、自分で突破する能力をもち、それを他者に伝えて巻き込むという能力を兼ね備えるのでハードルが高くなります。

個人差があるので一概に「向日性」を論じる訳に行かないですが、「スイッチ・オン・スマイル」と50年前に教わりましたが一瞬にして相手の緊張感を解きほぐす話術や笑顔がポイントになります。また、一つの方法として漫才師のように「自虐ネタ」を上手に使えと意外に相手の心に入り込むやり方もあるのです。「自虐ネタ」で笑いを取る、上手にやれば効果的ですが、こればかりではうまくいかないので時々使うのが良いと考えています。

4. 意外なリーダーシップ発揮法

今回は、藤井3冠の「雲外蒼天」と岸田首相の「早く行きたければ一人で進め。遠くまで行きたければ、みんなで進め。」の2つの格言から入り、「時の運」、「福の神」、「向日性」と展開して来ました。これらを俯瞰して見ると「運」が共通しています。私は、「縁・運・つき」が大切と言っています。まず、人と会う事から「縁」が出来て、その「縁」が双方の努力で「運」をもたらし、その結果、よい状況になり「つき」が備わるという好循環です。

この好循環をスムーズにする方法があるのです。それは「八百万の神々」と言いますが、人にはそれぞれの個性があり特技があり、その範囲で「神」と見る事なのです。「神様」は全知全能の存在になりますが、人を「〇〇の神」と一点で見る事が重要なのです。このように「〇〇の神」と見て多彩な才能の「神」を集める事で集団のポテンシャルが高めるのです。その為には、まず、自身が「雲外蒼天」でコツコツと努力して「壁突破」を行ない「蒼天」を得る事で「向日性」が生まれるという流れが大切なのです。この生まれた「向日性」を上手に使って他者を巻き込む能力がリーダーとして必要になるのです。集団のパワーを高める能力なのです。その為には、私が尊敬する三波春夫さんは「お客様は神様です」とおっしゃっていましたが、皆さん「〇〇の神」と一点で拝む心境になる事がポイントなのです。

「〇〇の神」と思って他人と接すると関係性が良くなるのです。全知全能の神様と期待すると過剰になってしまうのです。私は、サラリーマン時代、主任に昇格する際に先輩から「部下の長所を一つ掴むようにしないさい」と教わりました。自身の得意分野を尺度として他人を見るのでキツイ評価になるのですが、部下の長所を知っておけば、言葉遣いも変わって来るのです。この時に「〇〇の神」という考え方を知っておれば、状況が違ったのにと後悔します。「後悔先に立たず」と言いますが、反省をして「〇〇の神」と見るようにして人間関係を良くしたいと思います。ホンマに「〇〇の神」と見る事は意外なリーダーシップ発揮法になると発見しました。